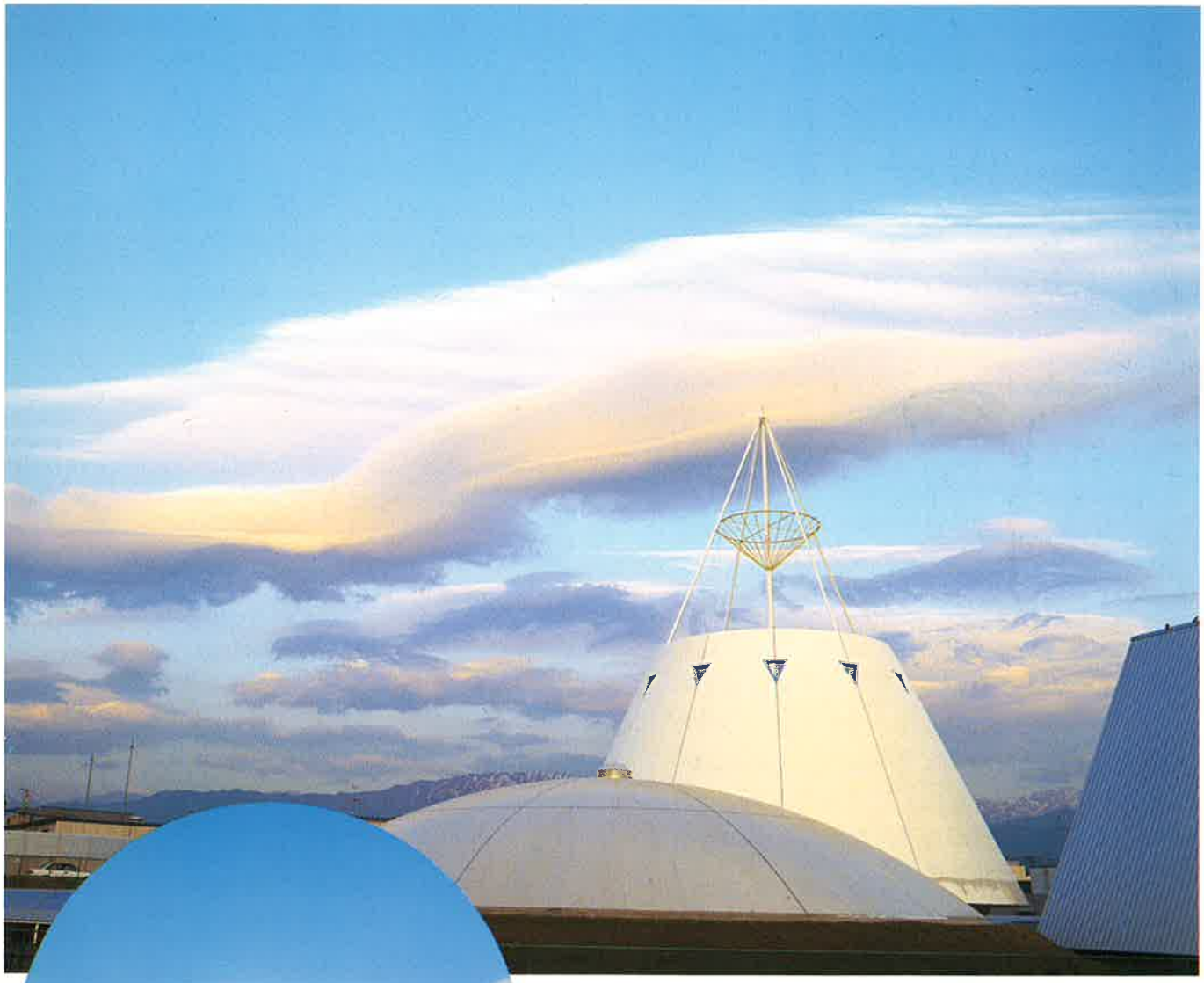
うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第２号

発 行 日：平成６年９月30日
編集発行：魚津埋没林博物館
印　　刷：魚 津 印 刷 ㈱

埋没林博物館とレンズ雲



今年の５月18日、仕事を終えて外に出ると見事なレンズ雲が浮かんでいました。ＵＦＯのような、あるいはくらげの群れのような不思議な形の雲です。美しくもあり不気味でもあり、長い間同じ場所に浮かびながら隣どうしつながったり、上下２段に分かれてまたくっついたり、いつまでも見飽きませんでした。上空の風が強いときに現れるレンズ雲は、悪天候の前兆といわれ、この日もそれから地上で風が強くなって天気が崩れました。

平成６年度全国高等学校総合体育大会にともない

皇太子ご夫妻ご来館

管理係長　久田英子

「立山にえがけ大きく君の青春」をスローガンに若人の祭典全国高校総体が７月31日より富山県で、皇太子ご夫妻をお迎えして盛大に開催されました。ご夫妻は三日間のご滞在期間中に県内の施設を訪問され、８月１日にはその中のひとつとして魚津埋没林博物館へご来館されました。

当日は朝から厳しい猛暑の中、職員一同緊張と鼓動を押さえながら各任務の再確認に余念がありませんでした。

館のまわりは歓迎の市民の皆さんでいっぱいで、その中をご夫妻は笑顔でお車から降りられました。そして、館長から〝蜃気楼の見える街〟魚津の３大奇観や博物館の沿革などの説明をお聞き取りになりました。また、館内では埋没林の実物や博物館教室の様子をご覧になりながら学芸員の説明を熱心にお聞きになりました。

博物館教室の会場でご夫妻は、市内の小学校から参加した生徒達とご一緒に水槽による蜃気楼の実験をご覧になりました。塩水と真水の入った水槽越しに見える蜃気楼の不思議さに目を輝かせて何度も顔を近づけられ、子供たちと会話される姿を垣間見ることができました。また、その後ミラージュシアターではふるさと創生事業で作られた発生装置による人工蜃気楼をご覧になり、本物の蜃気楼のイメージをより確かなものにされたようです。

直前までは施設の保守、点検やリハーサルなど目まぐるしい日々が続きましたが、ご夫妻を無事お迎えし、爽やかな笑顔に間近にお会いできたことでそれらの苦労も忘れ、感謝の気持ちでいっぱいです。

ご夫妻の影響か、この夏の入館者は昨年を大きく上回り、何よりすばらしい置き土産をいただいたと思います。今後はよりいっそうみなさまに愛される博物館を築いていこうと職員一同、努力する毎日です。

シリーズ

埋没林の仲間たち ②

トチノキ Aesculus turbinata Blume

トチノキは、北海道南西部から本州、四国、九州中北部までの山地に多く生える落葉広葉樹である。県内でも山地を中心によく見られ、大木も多い。幹は灰褐色で割れ目が多く、老木になるとでこぼこしているものも多い。葉は大きく、手のひら形に５～７枚に別れている。この葉を見ただけでもほかの木と間違える事はまずない。

春から初夏に白い花を枝先に穂のように咲かせ、秋に果実が実る。果実は直径５㎝ぐらい、褐色で皮が三つに割れ、中に大きな種子が入っている。種子は丸く赤褐色でつやがあり栗に似ていて、英語では horse chestnut（馬の栗）という。この種子にはデンプンが多く含まれているため、昔から食料として利用されている。今では土産物として売られている栃餅などを除けばごく一部でしか利用されていないようであるが、縄文時代には常食されたらしく、遺跡から大量の種子が出ることもある。しかし非常にあくが強く、食べられるようにするには大変な手間が掛かる。昨年の博物館教室で一度栃餅を作って試食してみたが、あく抜きが完全でなく、いま一つだった。

落葉樹なので冬には葉を落とし、冬芽をつける。この冬芽は割合大きく、多くの鱗片に覆われ、さらに表面には樹脂がついていて、触るとべたべたと粘る。手頃な大きさで、粘る特徴があるので、芽の観察の教材によく使われる。

トチノキは大木になり、大きいもので高さ35ｍ、直径４ｍにもなる。そのため天然記念物に指定されているものも多く、富山県では利賀のトチノキ、脇谷のトチノキ(いずれも国指定天然記念物、利賀村)、内山のトチの森(県指定天然記念物、宇奈月町)などがある。魚津市にも、天然記念物の指定は受けていないが、平沢の沌滝周辺にトチノキの古木の林がある。

トチノキの仲間は日本には１種しかないが、世界では北半球を中心に20数種あり、有名なパリのマロニエ(セイヨウトチノキ)もこの仲間である。

魚津埋没林では、昭和28年、平成元年のいずれの発掘調査でも果実が検出されている。現在富山県内のトチノキは山間部を中心に、まれに平野部でも生育している。平野部にある縄文時代の遺跡から大量に発見されたケースもあることから、縄文時代やこの埋没林が生育していた頃には、平野部でもトチノキは珍しくなかったようである。

この展示物☆ここに注目

１号館・倒木をはさみ込んだ樹根

１号館の中の南側(港側)の展示台の上に横たわるスギの根がある。これを予備知識なしに一見すると、どこがどうなっているのか一瞬判断に迷う。根の塊ということは想像がつくが、どこが元なのか分からない。おまけにまんなかに幹のようなものが横たわっている。脇にある解説板を読むと、天地を裏返して展示してあり、倒木が一本はさまれていることが理解できる。倒れた木の上に新しい木が根を張って包み込んでいったということである。

埋没林のスギが生い茂っていた頃には、樹齢が数百年にも達するものが密集していた。そのような森林では、木の高さは40～50ｍにもなり、茂った枝葉のため内部は薄暗くなる。そうなると地面に落ちた種が芽を出しても充分な光が当たらず、なかなか育つことができない。ところが何かの原因で木が一本でも倒れると、その部分には光が射しこんでくる。特に倒れた木の上は光が当たりやすく、実生(種から育った苗)が育ちやすい。これを少し難しい言葉で倒木更新という。薄暗い森林の中での植物の生存競争にとって、いかにして光を得るかは重要な問題である。大きく育った木が倒れてしまうと、その木にとっては生命の終わりを意味するが、ほかの植物にとっては、まさに千載一遇のチャンスということができる。このような倒木更新によって新しい木が育つ例は、スギの林だけでなく、ブナ林や熱帯のジャングルでも普通にあることである。

ここに展示されているものはその倒木更新でできたものと考えられる。一つの生命の終わりと、その上に成り立つ新しい生命の繁栄をこの樹根は物語っている。

行事報告

４月23日　博物館教室　春の草花を訪ねよう
—松倉城跡—　　参加11人

４月29日　海浜植物写真展
海浜植物の写真約30点を展示
（～５月31日）

６月11日　博物館教室　川と海の野鳥・草花の観察会　—片貝川原～経田浜—
参加15人

７月25日　博物館教室　野外観察会　片貝川南又谷の洞杉と蛇石　　参加14人

８月１日　全国高校総合体育大会開催にともない皇太子ご夫妻ご来館

８月20日　企画展　『片貝川の自然』
写真を中心に片貝川の植物などの自然を紹介　（～10月10日）

これな～に!?

夏から秋の野山でこの写真のようなものを見かけたことはありませんか。ススキやクズの繁った草むらの上に黄色いつるが絡み合いながら覆い被さっています。よく見ると植物であることに間違いはないのですが、葉っぱらしい物もなく、色や形は太目のラーメンのような感じです。

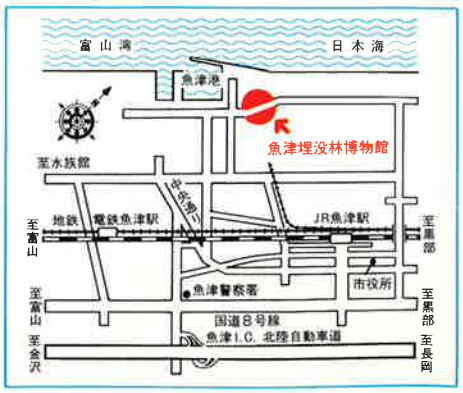
これはネナシカズラという植物です。ヒルガオ科の仲間で、秋に白い小さな花がたくさん咲きます。普通の植物は光合成をして自分で栄養を作りますが、このネナシカズラは他の植物から栄養をとって生きています。そのため葉緑体がなく、緑色にならないのです。ネナシカズラは種から芽を出したときには根がありますが、茎が伸びて他の植物に絡みつくと根はなくなってしまいます。ネナシカズラの名前はここからついています。

魚津ではこの仲間の帰化植物、アメリカネナシカズラも見られ、経田の砂浜などに生えています。アメリカネナシカズラは茎(つる)がもっと細く、黄色い糸のように見えます。

ネナシカズラは特別に珍しい植物ではありませんが、今年は例年になくあちこちの野山でよく目につきます。今年の猛暑と何か関係があるのでしょうか。

ご利用案内

○開館時間　午前９時～午後５時（入館は４時30分まで）
○休 館 日　12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始（4月～11月無休）
○入 館 料　・大人（高校生以上）…500円　　・小中学生…250円
○交　　通　・ＪＲ北陸本線・富山地方鉄道　魚津駅下車（タクシー…５分　徒　　歩…15分）
・北陸自動車道魚津ＩＣより車で10分



特別天然記念物　魚津埋没林博物館
〒937　富山県魚津市釈迦堂814　☎(0765)22－1049